

ひがなかの子

令和 5年 6月20日発行 第5号文責：門田



季節は春から夏へ

梅雨の合間の新緑がますます眩しく命あふれるこの季節、校庭南側の畑では、1～4年生が植えた芋の苗がすくすくと伸び、全校児童と一緒に植えた若い稲穂は青田風にさわさわ揺れています。これらの食に関わる農業体験学習は、今年度も、上原さんや畑をお借りしている鳥谷さんなど、地域の皆さんの支援のもとで実施できています。



子どもたちには、自然豊かなこの地域を誇りに思い、地域の良さや人とのつながりに感謝をしながら、これからの学習に繋げていってほしいと願っています。

○東中筋小学校PTA主催「夏まつり」の復活開催が決定！



メールでも配信いたしましたが、先週の金曜日、第2回「夏祭り実行委員会」が開かれ、4年ぶりとなるPTA主催イベント「夏まつり」の開催が決定いたしました。

今回は、日程の都合上、従来のような「えびす」さんとの合同実施（平成30年と令和元年）とはなりませんでしたが、子どもたちが喜んでくれるならと、次の様に行う事となりました。

日時：7月16日（日）15：00～17：00

会場等：校舎と体育館を利用して低・中・高学年の

3部会でお楽しみゲームや出店を企画・運営

役員の皆さんを中心に、当日を含めたこれからの準備作

業等、大変お世話をかけることとなりますが、よろしくお願ひします。出店等、7月7日（金）の実行委員会で決まり次第お知らせいたします。



○プールの季節がやってきました

6月1日（木）、以前は、高学年と中学生で行っていたというプール掃除、昨年度からは、全校児童総出の行事となりました。

午前中の2・3校時を用いて、各学年が役割分担をしながら、側溝、排水溝、プールの床などを、たわしやデッキブラシなどを使い一生懸命磨きあげ、1年間休んでいたプールが見違えるほどきれいになると共に、子どもたちの気持ちのよい働きぶりがキラリと輝く時間になりました。

先週8日、3・4年生の「プール開き」を皮切りに、どの学年も本格的な水泳授業が始まりました。体育の時間に取り組む水泳は、楽しみながらも学年の到達目標に向けて、まずは水に慣れ、泳法を学び、少しでも長く、速く泳げるよう泳力を身に付けることにあります。そして、何よりも泳げるようになることは、自分自身の命を守ることに繋がります。各学年の目標の達成と共に、一人ひとりが約束を守って、けがや事故には、十分に気を付け楽しく安全な水泳の授業としていきたいと思います。

*プール使用のきまり（抜粋、まとめたもの）

- ・体調が悪い時には泳ぐことはできません。夜も早く寝て、朝ご飯もしっかり食べてきましょう。
- ・準備運動をしっかりと行い、プールにいきなり飛び込んだりしないようにしましょう。
- ・プールサイドで遊んだり、走ったりしないようにしましょう。
- ・コースロープの上にあがったり、友だちをふざけて引っ張るなどの、いたずらはしないようにしましょう。
- ・具合のわるい人、ようすがおかしい人を見つけたらすぐ先生（かんし人、大人）に連絡をしましょう。



*東中筋小学校の校内水泳大会は、「参観日」として7月15日(土)の午前中に行う予定です。尚、その日の午後は、個人面談となりますので、よろしくお願いいたします。

*5・6年生が参加する中央区(四万十市・三原村)小学校水泳記録会は、8月1日(火)安並温水プールにて4年振りに再開されます。夏休み中の特別練習計画等を含め、詳細は後日お知らせいたします。

○6月9日(金)、恒例となりました田植えを行いました



雨で延期となっていた田植えを、今年も田んぼの先生、上原準さんにお世話になり行いました。

昨年秋の稲の刈り取りから、春の田起こし、畔取り、代掻き、肥料の散布、水や苗の管理、更には、子どもたちが田んぼまで下りる土手道の草刈りまでしていただき、当日を迎えることができました。

ここ数年の児童数の減少により、1反ほどの広さの田んぼ(ビレッジハウスの南側)を子どもたちのみでは、植えきることが出来ないため、前日までに、今回も半分より少し多く植えてもらってのスタートとなりました。



当日の午前中、まずは5年生が、「ころばし」で苗を植える目印となる後付けを

行いました。昔ながらの道具を使うことも、今ではなかなかできない貴重な体験となりました。

午後からは、全校児童に加え、区長さんや民生委員の皆さん、東中筋保育所の年長さんなど、たくさんの方々がお手伝いに来てくださり、1時間余りで植えることができました。6年生は、慣れたもので、下級生の手を取り声をかけてくれながら、植え残りはないかなど、最後の仕上



げまでしてくれました。他学年の子どもたちも嬉しそうに泥の感触を楽しみながら手際よく植えていました。開会式挨拶の際、※6月2日の「こども演劇祭」で鑑賞した劇『給食番長』に触れ、食べ物を粗末にしない、調理員の皆さんや生産者の方々など、多くの皆

さんのおかげで、美味しい給食が食べられることへの感謝の気持ちについても話をしました。

「米」という字は、「八十八」という文字から作られたとも言われています。そして、この「八十八」は、お米ができるまでには、88回もの手間がかかるという意味があり、子どもたちは、そのうちの1つを経験したことになります。これから5年生を中心に観察や草取りなどの世話をしながら、皆で、心を込めて植えたお米が、すくすくと成長して、今年こそ、秋にはたくさんの実りの穂をつけてほしいものです。

上原さんや地域、保育所の皆さん、応援にかけつけていただいた保護者の方々、本当にありがとうございました。なお、もち米(「サイワイモチ」育苗)は、例年のように学校への稲作体験補助として「高知県農業協同組合」よりを提供していただきました。併せてお礼申し上げます。



※「こども演劇祭」…四万十市生涯学習課の事業で2年に1回行われるもので、市内全小学校、保育所の総見となります。今回は、6月2日(金)に具同小体育館での開催となり演目は、「劇団仲間」による(よしながこうたさんの絵本でも有名)「給食番長」という作品でした。当日は、学校を代表して、宮崎快成さんが立派な挨拶をしてくださいました。尚、1人当たり700円の観劇料は、PTA予算より500円、「東中筋地区青少年を育てる会」から200円の補助をいただいたものをあてておりますので、お知りおき願います。